

## ■ 連盟大会規定

- I. 競技・運営に関する連盟取決め事項
  1. 主将主務会議が行われた際に、会議で説明された事項及び要項によって決められた事項はチーム全員に周知させること。
  2. 1度登録した選手の背番号についての変更は認めない。
  3. 開会式を行うとき
    - (1) 選手全員がユニホーム着用で参加すること。参加しない選手・チームは原則として棄権とみなす。
    - (2) 開会式は、主将を先頭に前方から背の高い順で整列すること。
  4. 当該試合の両チームは、開始予定時刻の1時間前までに会場入りし、大会本部（本部委員）に通知すること。
  5. 1部リーグは6チームとし、今年度春季リーグ戦は山形大学医学部、東北学院大学、東北大学、青森大学、仙台大学、東北工業大学となる。
  6. 1部リーグ6チームは、2試合制とし、順位は勝率により決定する。勝率で並んだ場合は、従来通りとする。
  7. 1部リーグ優勝チームは、全日本大学選手権大会に、準優勝チームは清瀬杯に出場とする。
  8. 1部リーグは6位と2部リーグの1位は1試合の入れ替え戦を行い、敗戦チームは2部降格となる。
  9. 2部リーグは6チームとし、福島大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、岩手大学、東北大学医学部、福島県立医科大学となる。
  10. 2部リーグは1試合制とし、順位は勝率により決定する。勝率で並んだ場合は従来通りとし、2部リーグ1位は、1部リーグ6位と入れ替え戦1試合を行い勝利チームは残留となる。
  11. 秋季リーグ戦は、1部リーグ6チーム、2部リーグ6チームとし、1部2部ともに1試合制とする。順位は勝率により決定とする。1部リーグの6位と2部リーグの1位は1試合の入れ替え戦を行い、敗戦チームは2部降格となる。
  12. 当番校のボールボーイは全試合ヘルメットを着用する事
  13. 第1試合は開始予定時刻の40分前に、第2試合以降は前の試合の7回が終了した時点で主将がメンバー表5通を大会本部に提出すること。

## ■全日本連盟の試合に関する規定

1. 試合中ダッグアウト（ベンチ）に入ることが出来る者は、下記のものに限定される。
  - (1)ユニホームを着用した監督1名、コーチ2名以内、選手25名以内。
  - (2)平服の部長(引率責任者)1名、マネージャー1名、スコアラー1名、トレーナー1名。
2. チームの関係者でグラウンドに入ることが出来る者は、練習中及びシートノック中を含めて原則として、登録してあるユニホーム着用者とトレーナーのみとする。但し、緊急時はその限りではない。
3. シートノックを行う監督又はコーチも選手と同じ服装（スパイクを含む）であること。
4. 試合前のノックの際、相手チームはベンチ内で待機すること。
5. 球場内でのフリーバッティングは禁止する。トスバッティングは、時間の許す場合は、相手チームのシートノック中を除きファールグラウンドで行ってもよい。但しフェンスに向かって行ってはならない。
6. 次の試合のバッテリーが球場内のブルペンを使用できるのは、7回終了後先発バッテリー1組とし、大会本部及び試合中のチームの了解を得るものとする。
7. 第1試合はメンバー表を提出次第、第2試合以降は前試合が終了した5分後に、両チームそれぞれ7分以内で後攻チームからシートノックを行う。
8. 第2試合以降が開始予定時刻より遅れている場合は、シートノックを短縮することや、行わないことがある。
9. 第2試合以降は前試合が終了して20分を経過すれば、開始予定時刻前であっても、試合を開始することがある。
10. 試合をスピードアップするため
  - (1) 攻守交代は駆け足で行うこと。
  - (2) 投手と捕手
    - ① 捕手からサインを見る投手は、必ず投手板に触れていること。
    - ② 投球を受けた捕手は、速やかに投手へ返球すること。
    - ③ 返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球位置につくこと。
  - (3) 打者
    - ① 速やかにバッターボックスに入り打撃姿勢をとること。
    - ② 投手が投球動作に入ったら、みだりにバッターボックスを外さないこと。
    - ③ ベンチやコーチボックスからのサインもバッターボックス内で見ること。

④ 次打者は、必ずネクストバッターサークルに入り、待つこと。プレイ中に投手の投球に合わせてスイングをすることは禁止する。

(4) 内野手間の転送球は、1 回以内とし、速やかに投手へ返球すること。ただし、試合進行が遅れている場合は認めないことがある。

11. 試合球の交換は、審判員が認めた時のみに行う。

12. 試合中にプレーヤーが交代する場合は、監督、コーチまたは主将が球審に通告し、同時に打撃順を明示すること。

13. タイムの制限について

(1) 監督またはコーチおよび捕手または野手が、一試合にタイムをかけて投手のところに行ける回数を、9 イニングの試合に当たっては 4 回以内とする。なお、延長戦（特別継続試合も含む）となった場合は、2 イニングに 1 回行くことが出来る。

(2) 攻撃側のタイムは 9 イニングの試合にあっては 3 回以内とする。なお、延長戦（特別継続試合も含む）となった場合は、2 イニングに 1 回行くことが出来る。

14. 捕手はハーフスイングに球審がストライクと宣言しなかった時に限り、捕手が塁審のアドバイスを受けるように要請してもよい。

15. 試合中の禁止事項

(1) 投手が打者を狙って投球すること。

(2) 走者が足を高くあげてスライディングすること。

(3) 野手がかからタッチなどして走塁を妨げること。

(4) ホームランなど得点したプレーヤーのため、ベンチコーチが本塁で迎えたり、選手がベンチを離れること。

(1) 紛争などの際、相手プレーヤーや審判員に手を出すこと。

(2) 相手プレーヤーや審判員に対する聞き苦しい野次及び学生野球にふさわしくない行為。

16. 雨天時等

(1) 球場管理人・審判団・大会本部関係者が協議の上、競技場使用の適否を決定する。

(2) 日程を考慮し、雨天であっても強行することがあり、天候とグラウンド状態によって開始予定時刻を遅らせることもあるので、独自で判断せず、必ず学生理事の指示に従うこと。

14. 大会参加チームは、次の事項を遵守しなければならない。

(1) 各試合の両チームはファウルボールの回収やグラウンド周辺の整理整頓などの作業に加え、加盟団体のグラウンドを借用する際など、グラウンド整備が必要な場合は次の通り協力すること。

- ① 試合前のシートノック後には、グラウンドを整備し、担当者の指示によって必要なラインを引く。
  - ② 試合終了後には、グラウンドを整備のほか、ベンチ内及びグラウンド周辺のゴミを回収して整理整頓のこと。
- (2) 試合でボール係をする者は、原則として6球で試合が進行できるようにボールを管理する。

## II. 競技に関する連盟特別規則

適用規則は基本的には最新版の「公認野球規則」とするが、特別規則としてこの規則が優先的に適用される。

1. コールドゲームによって正式試合になる回数を5回とし、次に該当する試合は、その時点で勝敗が決する。
  - (1) 完了した均等回における両チームの総得点差があつて暗黒・降雨など天候状態または時間制限のために試合打ち切りが宣せられたとき。
  - (2) 完了した均等回における両チームの総得点差が5回以降10点以上、7回以降7点以上となったとき。
2. 試合において、DH（指名打者）制を採用できる。
3. 申告敬遠を採用できる。申告敬遠を宣言できるのは、監督・コーチ・主将とする。
4. 野球規則に基づいてのアピールが許される者は、監督・主将及び当該プレーヤーに限る。
5. 走者が負傷の治療を必要とする場合は、投手を除いた打順前位プレーヤーの臨時代走を認めて試合を進行する。
6. ベンチコーチは、特定される必要はなく、ベンチに入ることが許された者であれば認められる。

## III. 用具・ユニホームに関する確認事項

### 1. 用具

- (1) 試合球は、全日本大学準硬式野球連盟公認するH号ボール。
- (2) 金属バットは、全日本大学準硬式野球連盟が公認した重量900g以上のもの（Nマークが印字されている）で、試合前に大会本部より安全確認を受けたものとする。公認メーカーは、ミズノ、エスエスケイ、ゼット、デサント、ローリングスジャパンLLC、アメアスポーツジャパン（株）〈ルイスビルスラッガー及びディマリニ〉及びアシックスジャパンの7社である（木製バットも同じ）。

### 2. ユニフォーム

- (1) 同一チームの選手（監督、コーチを含む）は、同色（ツートンカラーまで

- 認める)・同型・同意匠のユニフォーム(ヘルメット、帽子、ストッキングを含む)を着用しなければならない。
2. ユニフォームの背中には、背番号以外のものを付けてはならない。  
背番号は1番～50番までを使用し、このうち監督が30番、コーチが26番～29番、主将が10番とする。
  3. 打者あるいは走者であるプレーヤーは、野球用両耳フラップ付ヘルメットを着用しなければならない。
  4. 素振り用バット(マスコットバット)に鉄パイプの代用を禁止する。
  5. 投手は、利き腕の手首にリストバンド(サポーターなど)を使用してはならない。
  6. ベンチ内で使用するメガホンは両チームそれぞれ1個のみとする。使用用途は自チームへの連絡のみ限られ、相手チームの野次などに使用することは禁止する。
  7. 大会本部は、使用する用具の安全性を確かめるため、用具点検を行う。
  8. サングラスをかけずに不必要に帽子のつばにつけておくことを禁止する。
  9. 人工的茶髪、ひげ、パーマネント、長髪(帽子から両耳、後髪がはみ出ているものは即刻刈り上げること)、装身具(ファッションネックレス、ファッションブレスレット、ピアス、その他野球に関係のないファッション性のもの)ロングパンツで試合に臨むことを禁止する。
  10. 喫煙については試合ユニホーム及び運動着での喫煙また如何なる球場でもすべて禁煙とし、該当した選手はベンチ入り(2試合)を認めない。
  11. 色付きマニキュアシールを貼って試合に出ることを禁止する。